

市政に対する一般質問

一般質問は、提出された議案にかかわらず、市政全般に対して、議員が執行者の考え方をただすことができるものです。
6月定例会では、6月14日・15日の本会議で14人の議員から質問が行われ、終始熱の入った論議が繰り広げられました。以下は質問・答弁の概要です。(掲載は質問順、4面まで続きます)

る。横断歩道は県道側に設置で調整中である。また、水防訓練は地元消防団や自治会と実施に向け調整する。防災の日の制定は考えてないが、今年度はより実践的な防災訓練を行う。

安心・安全のため 防犯・交通安全・ 防災について問う

あやせ市政クラブ 増田淳一郎

問 安心・安全のまちづくりの観点から、防犯では、多発する犯罪から児童が身を守るための教育、学校教育において欠落気味な道徳教育、防犯ベルの実際の音を知らない市民への周知、振り込め詐欺の実例冊子の戸別配布及び風車公園夜間照明の消灯時間延長についてを問う。次に交通安全では、多発する子どもが加害者の自転車事故における補償の指導、子どもや高齢者に対する交通安全教育及び風車公園出入口への横断歩道設置についてを問う。また、防災では、河川周辺自治会の水防訓練毎月一日を防災の日とすること、実情にあった防災訓練についてを問う。

余裕教室の有効活用として給食による異世代間交流を

あやせ市政クラブ 青柳 慎

問 綾瀬集中改革プランの施策の中で、少子高齢化等により施設の利用形態が変化しているため、多くの市民が効率的に利用できるような課題を整理して、平成十九年度から余裕教室の活用を図ると明記している。学校は地域コミュニティの核とも言われ、その余裕教室で学区内の人々の異世代間交流を図る利用方法も一つの考えかと思う。そこで、学校周辺のパトロールボランティアや老人クラブの方など、日ごろ学校を訪れる市民を対象に子ども達とのふれあいを一層深める観点から、月に数回程度、有料による学校給食の会食の機会を検討できないか。

団塊世代に地域を担ってもらうための受け皿づくりを

あやせ市政クラブ 安藤多恵子

問 来年から定年退職を迎え地域に帰ってくる団塊の世代へのアンケート結果では、「地域の人々と交流しながら、社会貢献をしたい」と考えている人が三〇%以上あり、キャリアを生かしてまちづくりや地域を担ってもらおうための受け皿づくりが必要と考えるが、市では二〇〇七年問題をどうとらえているのか。さらに、コミュニティビジネス等の起業支援や荒廃地を利用した農園などの仕組みを各課と一緒に議論する場が必要ではないのか。また、六十代は青春真っただ中という認識を発信し、壮年クラブを設立してはどうかとらえ、団塊の世代の豊富な経験

地域経済の活性化に向け 道路交通網の整備促進を

新公会 綱嶋 洋一

や知識を貴重な資源として、地域活動等に貢献してもらえれば大変有益であり、市民協働の絶好のチャンスと考えている。市では、市民スクールの講座で情報提供するとともに市民活動センターで活動情報や参加機会の提供、各種相談等を実施しているが、個々の能力を十分に発揮できる環境の整備と各種施策の横断的な連携強化が重要と考えている。これからは、六十代も地域活動等で指導者となってもらえるよう、その引き出し方を課題として検討していく。(他に「職員の人材育成について」「市庁舎の活用について」を質問)

問 主要幹線道路を含めた道路ネットワークづくりは、産業集積を促進し、中小企業を含めた地域経済の活性化と雇用創出の上で、大きな役割を担うと考える。本市では大手飲料水メーカーの工場が来年完成予定であり、市のイメージアップと産業界の活性化により、市のさらなる発展が期待される反面、幹線道路の交通量が増加すると推測される。その対策として道路整備や今後の道路計画はどう進めていくのか。さらに、インターチェンジに対する県の取り組み状況は。また、交通不便地域の解消に向けての現在の取り組みは。



光綾公園のバラ園は日傘が必要なほどいっぱいの日差しを受け満開でした。今年も憩いや安らぎを求めて、多くの人々が訪れました

次号は、11月15日の新聞(朝刊)に折り込みます。

あやせ・カワセミ大作戦 その現状と今後の展開は

あやせ市政クラブ 中野 昌幸

問 市では昨年九月から循環型社会の構築に向け、ごみの減量とリサイクルを進める緊急アピールとして「あやせ・カワセミ大作戦」を展開しており、四月からはその一環として新たな収集体制が始まった。また、五月のごみ月間では部長級職員が収集所の当番を、さらに市長自らのごみの収集作業を体験するなど、市長を先頭に職員が一丸となって取り組んでいることを評価するが、今回の体験から実感したものを今後の作戦展開にどのように生かすのか。さらに、平成二十三年度までにごみ五〇%削減を目指し、市民が一丸と

線へのネットワーク化に向け、四路線の都市計画道路の整備を推進する。交差点改良は、綾瀬大橋西側を昨年度完了、今年度は吉岡と光綾公園横を実施する。交通マスタープランは、他の計画と整合を図りながら、今後見直していきたい。県は調査の結果、有料道路事業としておおむね採算が合うと試算し、今年度はさらに詳細な調査を行う。また、交通不便地域の解消は、コミュニティバスを四ルート増設すべく取り組んでいる。(他に「教育行政について」を質問)

なつて作戦を展開すべきと考えるが。答 ごみ月間中に可燃ごみの収集作業とともに資源物の収集場をパトロールしたところ、可燃ごみの中には紙類などの資源物が混ざり、分別が徹底されていないことを実感した。さらに、ごみ出しのルール違反が後を絶たず苦慮している地域も多いため、聞いています。これらのことから、減量化を推進するため、ごみ出しのルールを守り、分別を徹底するよう自治会をはじめ集合住宅の所有者や管理者などを通じて啓発するなど、粘り強く訴えていく。また、七月に市民参画による家庭ごみ減量推進会議を設置し、市民が一丸となってごみの削減に向けて取り組むよう進める。